

重 要 貝 類 増 殖 試 験

担当者

調査普及課長 長 峰 良 典

技 師 斎 藤 重 男

技 師 補 中 田 凱 久

I 調査目的

本県太平洋岸に棲息するホツキガイは年々漁獲の減少をきたし、その対策として禁漁区の設定、他県産稚貝の移殖の二つの方法がとられている。本年は移殖用稚貝の自給の可能性及び移殖後の稚貝の生長状況を明らかにするため本調査を実施した。

II 調査内容

(1) 調査期間 昭和43年5月25～26日・8月27日・11月14

(2) 調査場所 八戸市及び三沢市地先

(3) 調査項目

(イ) 稚貝分布調査

(ロ) 移殖貝再捕

(4) 調査方法

(イ) 稚貝分布調査は田村式採泥器で泥をとり1mm目の篩を通して稚貝を採集した。

(ロ) 成貝の採捕はホツキ桁細を使用した

III 調査結果

(イ) 稚貝の分布調査は図1の三菱製紙前から蕉島まで10点について行つた。得られた稚貝で生きているのはサラガイ、エゾバカガイのみでホツキガイの死殻が僅かに2個得られただけであつた。1962年11月の調査の際は八戸市白銀付近(調査点10付近)が大量発生の場所であつたが、埋立等により失なわれてしまい今回の調査結果ではそれにかわる大量発生場所はないことがわかつた。

(ロ) 移殖貝の採捕

三沢市鹿中地先において1968年3月移殖したホツキ貝の再捕を試みたが、結果としては失敗に終つた。即ち調査の能率を高めるため動力船による曳網を準備したが、桁網とラインホーラーの調節(曳網速度)がうまくとれず、移殖貝は再捕出来なかつた。

IV 考 察

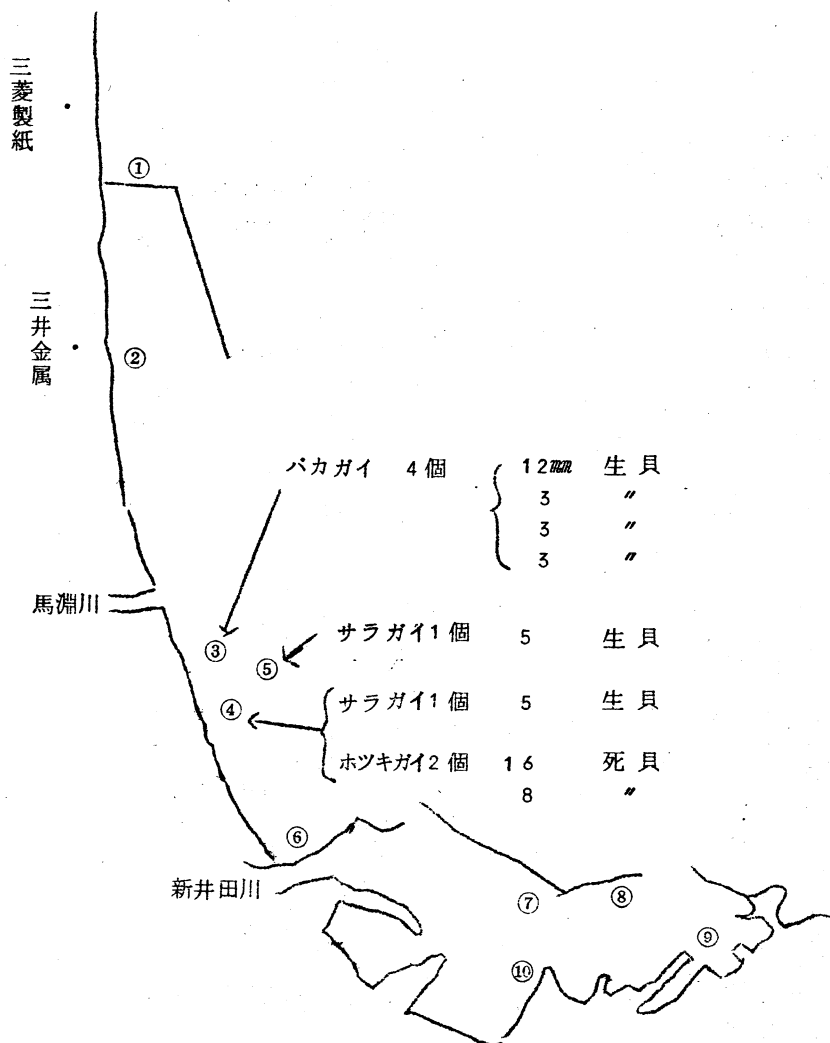
(イ) 稚貝調査

1962年11月にこの地先のホツキガイ資源調査を行つているが、今までの大量発生場所であり好漁場であつたところは埋立て又は浚渫により浚て失なわれてしまい、これにかわる場所は今回の調査範囲では見当らなかつた。今後ホツキ資源の涵養のため稚貝の自然発生を期待するな

らば表2，図2，3のような条件を満たす底質を何らかの方法により作り出す方法があるう。
 (四) 1968年5月25日に十勝沖地震の被害調査の一部としてホツキガイの現存量を調査した
 がその結果は次のとおりである。

	1962年	1968年
五戸川地先	4～13	67～144個
奥入瀬川地先	39～7	66個
		(個数は100m ² 当り)

この地域は3年間禁漁区にしていたところであり，地震により或る程度流失したとしても明
 らかに棲息個体数は増えており，禁漁による効果は大きく出ている。



粒度組成

- 291 -